

欧州馬術レポート

週刊 Gallop 2021 年 4 月号掲載



日本中央競馬会所属

◆佐々紫苑

(さっさ・しおん)

1995年東京都生まれ。早稲田大学卒。2012年全日本ジュニアライダー総合馬術選手権優勝。15、16年全日本ヤングライダー総合馬術選手権連覇。20年4月にJRA日本中央競馬会入会。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

馬心伝心 —奮闘記part II—

佐々紫苑

Shion Sassa



毎日、きちんとおいしく食事がとれるのは、人も馬も健康な証拠。特に馬術競技馬や競走馬はアスリートとして、効率的で消化も良く、栄養価の高い、そしておいしい食事を与えることで体調を管理します。体重制限のない競技馬の場合、餌は大きく分けて2種類。濃厚飼料と呼ばれる麦や穀類を加圧したペレットなどの餌、もうひとつは粗飼料である乾草です。もちろん馬によって量は違いますが、私がいたオランダの

厩舎では、朝にペレットと乾草、昼は山盛りのニンジンか、乳酸菌の豊富なチャフヘイジと呼ばれる発酵乾草、夜は朝のメニューにもう1種類配合飼料（何種類かの濃厚飼料をバランス良く混ぜたもの）を加えて食べさせていました。このように朝晩2食は濃厚飼料、昼は軽く、乾草は多めというのが一般的です。

ただし、試合前後は馬の体に負担をかけないように調節が必要です。疲れているだろうからたくさんお食べ、と濃厚飼料を多くあげるのは逆効果で、これはフルマラソンを走り終えた人に大盛りのかつ丼を出しているようなものです。疲れているときはそうめん、ではなくさ

っぱりと乾草を好んで食べる馬が多いようです。普段から愛馬にとっての適量を把握しておくことで、食べ残しがあるとき、あるいは水が減っていない時には、「おや、どこか具合が悪いのかな」と体調不良に気付くことができます。日常を共に過ごしているからこそ、ちょっとした変化にもすぐに対応できるのですね。



右上から時計回りに配合飼料、ペレット、チャフヘイジ、エン麦 (本人提供)

Let's enjoy Dressage

高田茉莉亜

Maria Takada



アイリッシュアラン乗馬学校所属

◆高田茉莉亜

(ただ・まりあ)

1994年東京都生まれ。慶應義塾大学卒。2010、11年に全日本ジュニアライダー馬場馬術選手権連覇。16年の全日本ヤングライダー馬場馬術選手権で史上初の4連覇を達成した。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

馬場馬術のユニホームといえば、エレガントなえんぴ服に白いキュロット（乗馬用ズボン）、ロングブーツに『シルクハット』。ですが、今年の1月1日にルール（国際馬術連盟制定）が変わって、国際競技会でのヘルメット着用が義務付けられ、シルクハットで競技に出場することができなくなりました。10年ほど前から、競技時にヘルメットを着用する選手がだんだん増えてきて

はいましたが、やはり伝統的なシルクハットを好む選手も多く、昨年の大会ではシルクハットを着用する選手とヘルメットを着用する選手が半々といったところでした。

以前から25歳以下の若手選手にはヘルメット着用が義務付けられていましたが、このルールがすべての年代の選手に適用されることとなり、昨年には欧州を拠点にしているトップライダーたちが馬場馬術の伝統を守るべく、ルールの廃止を求め署名を集めるほどでしたが、願いはかなわず…。馬場馬術の世界も、伝統を尊重しつつ時代の変化に合わせていく必要があるということでしょう。

馬場馬術のフォーマルなユニホームにヘルメットを合わせるのは、見慣れるのに少し時間がかかりそうですが、安全性を考えると仕方ありませんね。



馬場馬術もシルクハットからヘルメットへ

(本人提供)

